

第2回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成31年2月22日（金）18:00～19:15

場所 であえーる岩見沢4階 会議室1

1 開 会

2 議 事

報告事項

(1) 発達支援ファイルに関する専門部会の報告について

協議事項

(1) 岩見沢市子ども・子育てプランの変更について

(2) 子ども・子育てプランの進捗状況について

(3) 次期計画の策定スケジュールについて

(4) その他

平成31年度第1回会議の日程調整について

3 閉会

事務局 1 開会（18:00）

会長 2 議事

それでは議事に移ります。報告事項（1）発達支援ファイルに関する専門部会の報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (1) 発達支援ファイルに関する専門部会の報告について

会長 今のご説明の中でご質問はありますか。お気づきの点がありましたら事務局までご連絡いただければと思います。

会長 それでは次に移りたいと思います。協議事項（1）岩見沢市子ども・子育てプランの変更について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (1) 岩見沢市子ども・子育てプランの変更について

会長 新しく認可を受け、子ども園ができたり、よいこのくに幼稚園が移行する関係で人数が変更になったというお話でしたが、これについて何かご質問はありますか。
とにかくなんとかなるという説明でよろしいですか。

事務局 そうですね。

会長 よろしいですか。それでは次に移ります。協議事項（２）子ども・子育てプランの進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （２）子ども・子育てプランの進捗状況について

委員 K 平成 31 年度の新規見込事業の質問をしてよろしいですか。健康づくり推進課の方へ母子保健で 3 つ聞きたいのですが、1 つ目は新生聴覚検査、これは見込で実施しますか。

委員 B 議会の議決を経てにはなりますが、予算要求をしていますので、来年度から実施予定です。

委員 K 2 つ目は産婦ケアと産後健診です。産後うつの不安サポート用に 2 回ずつ。これも新規見込でよろしいですか。

委員 B はい。

委員 K 3 つ目は、35 歳から 56 歳までの男性の風疹の定期検査と定期ワクチンです。定期というからには無料になると思いますが、クーポン券が自治体から発行されるというメールが昨日来ました。詳しくは各自治体に問い合わせてくださいとなっていました。新規事業になりそうですか。

委員 B なりそうです。準備を進めています。

委員 K ワクチンがまったく手に入りません。

委員 B はい。困っています。市内だけでなくどこでも受けられるように、集合契約になっているので、市外の方も受けに来たり、逆に岩見沢市民が市外へ行く可能性もありますが、ワクチンがないというのは先日の懇談会でも話題になっています。

- 委員 K 同じことで、麻疹が流行っていて麻疹のワクチンもないです。新規事業の確認でした。
- 会長 いかがですか。
見込み数と桁が違うというのはどう調整するのですか。
- 委員 K 病児保育は、現場にいる者からすると、インフルエンザ流行期に受入体制が3人のところに10人来てても受けられないです。流行っていないときは0人です。なので、千何百人希望がいてもボトムネックがあって、かといって人数に幅ができる施設でもないのです。見込み数というのは非常に難しいです。
- 事務局 全国どこの自治体でも同じ悩みを持っていて、確かに今委員 K がおっしゃったように、インフルエンザが流行ると大きく希望はありますが、まったく利用のない日が月の半分くらいになりますので、簡単に枠を増やすこともできませんし、あったら将来使いたいというのと、実際にお金を払って使うというのが必ずしも一致しないところが、見込みの難しいところですので、次の計画を立てるときには、他市がどういった判断をするのか、これまでの5年間の実績をどう反映するのかを含めて、何件と見込むのかを検討していきたいと思いません。
- 会長 預かり関係は特に難しいですね。
- 事務局 そうですね。預けたいですかと聞くと、そのときに預ける預けないが決まっていないと、とりあえず預けたいと答えますが、実際は祖父母に預けることができるなどの方法を持っている方もいるので、それで実際の利用と結びつかないところはあります。
- 会長 ニーズから判断するとそういうことになりますが、キャパシティから考えるとこれくらいという計算はできますよね。
- 事務局 提供体制で言うと、毎日最大3人で受けたらここまでというのは受け皿を計算するしかないですが、ニーズ量についてはなかなか難しいことではあると思います。
- 委員 K 産院の人数の推測はたしかに難しいですが、3割が市外で、あまり変わらないかなと思います。新しくお産の病院ができると噂がありましたが、結局はなくなりました。小児科も1減のままで、先生は6月に札幌で開業することが決まりました。お産の数は漸減かなと思います。逆の問題もあって、祖父母が市内

にいて、市内に住民票のない母子が里帰り出産で2、3ヵ月いるが、受け入れる体制が十分ではないという部分もあります。

事務局 周産期医療の枠についてはこの会議でどうにかできるとはなりません、こういう課題が岩見沢市にあるということは考えて、政策などに反映していかなければならないなど考えています。

会長 他に何かありますか。ないようですので次に進みたいと思います。協議事項（3）次期計画の策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 協議事項（3）次期計画の策定スケジュール

会長 次期に向けてのスケジュールということですね。何かご質問ありますか。ないようですので次に移りたいと思います。

（4）その他ですが、前回ご質問のあった出産場所の統計について、健康づくり推進課の委員Bよりご説明頂きたいと思います。（資料非公開）

委員B 前回委員Kからご質問のあったものをまとめました。出産病院の統計ですが、平成29年度は先ほどの説明にもありましたが、平成26年度から今年度12月末現在までの数を調べてきました。大体7割くらいが市内、3割くらいが市外ですが、平成29年度はこどもクリニックが閉院したことに伴い、こどもクリニックにかかっていた方を市外に紹介する件数が多かったので、66.5%が市内で33.3%が市外となっていますが、今年度を見ると、市内に少し比重が増えてきています。今は市立病院もレディースクリニックも混み合っていると妊婦さんから聞いています。

委員K 増えています。

委員B 次に特定妊婦ですが、特定妊婦とは、出産後の子どもの養育について、出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦のことをいいます。たとえば、不安定な就労等で収入基盤が安定していないことや、家族構成が非常に複雑であったり、親が知的・精神的障害などで育児困難が予測される場合などが考えられています。妊婦健診が未受診の場合も入ります。岩見沢市の場合は妊婦健診が未受診というのはあまりないです。健康づくり推進課では特定妊婦について数を拾っている統計がありませんでしたので、妊婦のハイリスク項目の該当者を拾っている統計がありましたのでそちらを載せています。妊娠時の気持ちというのは妊娠時に嬉しかったとか、困ったなどアンケートをとっていますが、その中で、予想外で驚きとまどった、困った、何とも思わなかったと

という方の人数をとっています。あとは経済不安や、妊娠高血圧症候群の既往があることや、保健師が面談をしていて気になったケースや精神疾患の既往がある方の人数をとっています。各項目は重複しています。今年度の特定妊婦の人数のなかでは、20歳未満が多いです。精神科へ受診中だったり、覚せい剤を使って収監された方も今年はいらっしゃいました。親に障がいがあって支援しているケースですが、健康づくり推進課の保健師が関わっているケースで、障がいの疑いのあるケースも含めて人数をとっています。その中で、知的に障がいがある方は、お父さんが1人、お母さんが5人。疑いも含めるとお父さんが4人、お母さんが15人です。知的障がいの方は療育手帳を持っている方です。疑いは保健師が面談をしていくなかで気になったり理解力がどうかなど思ったケースです。精神的な部分では、自立支援医療の受給者証や手帳をもっている方をとっていて、お父さんが1人、手帳などはないが治療している、既往歴がある方が3人、お母さんが自立支援医療の受給者証や手帳を持っている方が9人、手帳などはないが治療している、既往歴がある方が31人、疑いや病院を勧めようかなと思っている方が6人います。身体のほうでは、手帳は持っていませんがリウマチのお母さんが1人います。再掲として、ご両親ともに障がいのある方が5件で、その内容は資料に載せているとおりです。高次機能障害を持っているお父さんが父子家庭で1件いました。

会長 ありがとうございます。何か質問等がありますか。

委員 K 人数はもっと多いのではないかと思います。実際は出産しても子育てができなくて放り出す人が毎年いたり、DVで警察に入ったりする人もいます。暴力が見える形だったり、障がい者手帳を持っていたりして、介入しやすいケースは良いですが、グレーゾーンがすごく多く、どこの手立ても、法律もうまく使えない方が6~7割いて、こういった方たちをなんとかフォローできないか、法律などはないかと思っています。

会長 この調子でいくと平成30年度はどのくらいの数になりそうですか。平成29年度よりすこし少ないくらいですか。

委員 K 12月末現在では減っているように見えますが、最終的には変わらないのでは。

委員 B 400人は超えるとは思いますが。

会長 はい。それでは本日予定している議題は以上になりますが皆様から何かありますか。

委員 H 貧困家庭が気になっています。他の事業についてもそうですが、貧困家庭についてどのようなサポートができるのでしょうか。

委員 K 生活保護をとれていればラッキーで、祖父母は近所にいますが喧嘩をしてお金がもらえないが法律的に保護はとれないケース、安いアルバイトをしているから生活保護はもらえないといったケースもあります。過去にある例では、10代のカップルで、祖父母と喧嘩をして自宅にいられず、夜警の安いバイトをして、電気もガスも水道も灯油もすべて2月に止められ、粉ミルクを買うお金がなくて赤ちゃんを捨てる例は実際にありました。生活保護をとれない方のほうが貧乏です。

事務局 市立病院は色々な家庭の方が見つかるプラットフォームになっていることと、家庭の中に入ってますので、やはり地域で見つけるというのは難しいと思います。ではどこで見つけるかという、やはり保育所・幼稚園・学校となると思っています。手厚くきれいに拾えているかというやはり難しい部分もあります。保育所・幼稚園・学校で見つかったときに、どんな支援ができるのかを個別に支援をしていくしか、今のところ方法はありません。先ほど委員 K がおっしゃられたような両親の下に置いておいては危ないなという方は少なくないですが、そのような場合は要保護児童対策地域協議会でケース会議をして、働いている・働いていないに関わらず、会議で決定して保育所に入れることができます。保育所に入ればなんとか1食は食べることができますし、痣や病気も発見できます。家庭を見て発見するのは非常に難しいので、子どもを見て発見していくしかないです。貧困といっても、スマートフォンを持っていて一見ちゃんと生活しているように見えて実は食べることに重きを置いていない家庭もあります。そういったときは、保育所・幼稚園・学校で子どもの様子を注意深く見ていくしかないと思っていますし、今もそういった形で対応しています。

委員 H ありがとうございます。なかなか忸怩たる思いがありますよね。

事務局 今後、第2期の計画を立てていくときに、どういったところに岩見沢市として特色をもっていくかといったときに1つのテーマとなるのかなと思います。ただ具体的な手立てがどうなるかということも重要になってきますので、そのあたりを第2期計画のなかで協議をして知恵を出し合っていければと考えますので、よろしく願いいたします。

会長 何となく今ので締まってしまいましたね。

委員 K 第2期計画の柱の1つに、発達支援センターがであえーる内に入り、せっかく南空知の中心になるような良いシステムが出来つつあるので、ワンストップセンターになって、そこをサポートできるような柱が1つできるといいので、足りないところや、どううまく活用するかといったことを、この会議のなかで具体的な話をもっと出てくるといいなと思います。

会長 良いでしょうか。それでは議事を終わります。

事務局 3 閉会 (19:15)